

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270135140		
法人名	社会福祉法人 長崎厚生福祉団		
事業所名	グループホーム 鶴舞苑Ⅱ		
所在地	長崎市大谷町418-1		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長崎県事務所
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

毎週一回ご利用者の得意としている事や興味をもっている事(生け花、手芸、ペン習字、貼り絵、塗り絵等)を活かして趣味活動を行っています。生け花はご利用者の中に生け花の先生がおられるので生け花教室を開催し、希望されるご利用者と職員に指導して頂き、参加されないご利用者には別の日に個別で関わりをもっています。役割があると言うことはその人にとって生きがいとなっておられるように思えます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念である「笑い声のたえない めくもりのある我が家を」は全職員に浸透している。生活の中で職員は笑顔と笑い声の絶えない介護に心がけている。職員は業務より利用者優先の介護に心がけており、利用者が自由に楽しく暮らして欲しいとの考えで支援をしている。同建物内にある併設事業所同時開催の合同祭では、出展する作品を利用者全員で作成しており、皆の楽しみとなっている。毎週木曜の趣味活動では個々の作品作りが行われている。作品はシルバー作品展に提出する計画をするなど、楽しみを活かせる工夫がされている。職員の意見、提案、要望など言い易い雰囲気作りがされている。介護におけるマニュアルが作成されており、利用者が快適に過ごせるための勉強会をしている。外部評価の意義が理解されており、振り返りとして今後のサービス向上に繋げている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしさ、大切にしたいものは何かを職員全員で話し合い作り上げ、理念に込めた思いをいつも忘れず、ご利用者とご一緒に楽しむ姿勢と笑顔を日々大切にしている。	理念は全職員で話し合い作成しており、日々の介護においては理念が浸透している。「笑い声のきこえる ぬくもりのある我が家を」を基本として、日々利用者と共に楽しみ、心からの笑顔で接している。管理者、職員は常に利用者本位の支援をするよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生や個人に至るまで様々な方がボランティア活動に訪れてくれる。	事業所自体は近隣から離れているが、系列のケアハウスなどが施設内に隣接している。そのためケアハウスを利用する地域住民が多く、利用者との交流に繋がっている。ボランティアの受け入れや地域の祭りを見物するなどして交流するように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習の受け入れにより、ご利用者と関わって頂き、認知症を理解していただけるよう疑問等にもお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見等を伺い、質の向上に努めている。	2ヶ月に1回規定のメンバー他、法人の本部から職員も参加している。議事録もその都度作成し、整理するなどして取り組んでいる。各委員から幅広く意見交換をしサービスの向上に努めているが、利用者の暮らしぶりや行事の報告をするに留まっている。	運営推進会議は議題を工夫し、事業所の取り組み、改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得る場となるよう内容の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じてその都度相談させていただいている。	担当課職員とは気軽に相談出来る関係を築いている。他にも体験学習や総合学習の受け入れも積極的に行っている。日頃から行き来がありお互いに協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学び、拘束は行っておらず、鍵もかけないで自由に過ごしていただいている。	身体拘束においては新任とともに現任研修をしている。定期的に会議を開催し、研修を実施しており、具体的な事例を取り上げるなど積極的に行われている。玄関は施錠せず、利用者は自由に過ごしている。職員はさりげない見守りで身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修により職員の意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修で学び、必要に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入所時に重要事項説明書により時間をかけて説明するとともに、疑問が生じた際にはその都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションや話しやすい雰囲気作りが心がけ、ご利用者の言葉やご様子から汲み取り、ご家族からのご要望の申し出があった際には職員全体で話し合い、改善に努めている。	家族等の意見、要望が出やすいように、意見箱を設置している。面会時には職員も一緒に話し、要望等聞く姿勢に努めている。必要に応じて申し送りノートや介護日誌にも記載している。関連性がある場合はケアプランに載せ改善に努めている。ただし、検討内容と対応の記録がない。	検討内容と対応を記録し、改善の経過や結果を運営に反映させる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングや毎日のカンファレンスの中でも常に職員に意見を聞くように心がけている。	月1度のミーティングや毎日のカンファレンスで、職員の意見、提案を聞いている。会議においては自由に発言出来る雰囲気である。年1回個人面談を設けており、希望の研修や勤務体制においても話し合い、働きやすい体制作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては研修を行い、職員一人ひとりが得意とする手作業を利用者と週1回行い向上心を持って働けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に必要な研修が受けられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの研修や見学の受け入れは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへは出来る限りご来苑して頂きホームの雰囲気を見て頂いたり、入院先あるいは自宅へ訪問し時間をかけてお話をお伺いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じてご家族には何度でも来苑頂き、不安や疑問がなくなるまでゆっくり時間をかけてお話を伺い、また電話での質問等にもお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の状況に応じ、介護保険制度、他施設や在宅サービスの内容とご利用方法等も説明している。またご質問にも何度でもお答えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とは日々の生活の中でご相談したり、アイデアを出し合いながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いやご事情を理解しながら協力していただけるようお願いし、またご要望に備えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけて行ったり、逢いたい人には逢えるように支援している。	外出時には利用者が慣れ親しんだ場所の景色を見せたり、家族に友人、親戚など馴染みの方々の訪問の協力をお願いしている。居室には電話を設置しており、利用者はいつでも電話を掛けられるようにしている。時には希望に沿って一緒に手紙を書き送付をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が自然にお互いのお手伝いをしてくださるので安全面に配慮しながらお任せしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所された方のご家族にも来苑して頂けることが多く、ご利用者のご様子を伺える機会もあり、その時には介護に関する悩みやご質問にもお答えしている。また電話を頂いた時ご質問にお答えしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活の中での言葉やご様子に心を配り毎日のカンファレンスの中でも確認を行い、ミーティングで職員全員と話し合っている。	利用者の習慣を変えることなく従来の暮らしを反映させる支援を行っている。表情やしぐさを見ながら声かけし、思いや意向を把握して、毎日のカンファレンスやミーティングにて確認している。無理強いすることなく自分がしてきた事を継続させる支援を努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用により把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用やバイタルチェック、コミュニケーション、健康体操と毎日のカンファレンス等により職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常中でのご本人の言葉やご家族からのご要望、3ヶ月に1回のモニタリングを踏まえてカンファレンスを行い作成している。	来訪の際に本人、家族の希望や意見を聞く機会を持っている。入居後は利用者の様子を見ながら職員が情報収集しており、必要に応じて看護師、嘱託医とも相談している。ミーティングで職員間で検討し介護計画を作成している。3ヶ月1回の見直し以外にも状況に応じ作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のご様子や実際のご利用者が話された言葉などを、ケアチェック表に記録し毎週評価を行いケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてショートステイなど利用していただいていた。(9月まで)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族のご希望に合わせて嘱託医とかかりつけ医の連携をはかりながら医療的支援を行っている。	基本的には入居時に24時間体制の嘱託医の説明を行い、納得を得て変更している。かかりつけ医とも相談の上、24時間体制が出来ればお願いしている。定期健診はかかりつけ医を継続し、嘱託医の往診を含めそれぞれに連携を取りながら受診や看護の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の往診の他、日頃よりご利用者一人ひとりの健康状態を報告し、連携をとって受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会し、ご利用者、ご家族の状況をお伺いすると共にソーシャルワーカーとの情報交換や医師、看護師との相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃よりご利用者やご家族の意向を確認しながら状態が変化するたびに十分話し合い、その都度ご家族の意向を確認し事業所でできること、できないこともお伝えし話し合い、職員全員でその方針を共有している。	昨年の改善項目であり取り組んでいる。利用者や家族の意向に沿う話し合いを行い共有化している。職員においては、マニュアルを作成し勉強会をしている。管理者は看護師であり、職員に指導が出来るため、職員の精神的安心に繋がっている。常に職員、医師、看護師との情報交換、連携体制がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、研修により学び備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。	年2回消防署を含む避難訓練を実施している。訓練は利用者参加で夜間想定も行っている。消防、風水害、地震等の計画を作成しており、地域の消防分団との協力体制がある。地震、台風等における災害対策としては法人内で協力体制を築いている。ただし、緊急時の避難経路が明確ではない。	緊急時に慌てず確実な避難誘導が出来るように、複数のパターンを設定した訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一つひとつの言葉に共感、受容し、ご利用者の気持ちを大切にし対応により傷つけないように努めている。	個人のプライバシーの尊重は重要事項説明書に記載している。職員においては新人研修時に説明している。接遇マナー研修では、言葉の重要性を学んでいる。利用者と会話する上においては、相手の気持ちを尊重し傷つけないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話やすい雰囲気作り心がけ、十分に時間をかけてしっかりと想いを受け止めて選択や決断への支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は決めているが、ご利用者の気分に合わせてその時に大切にすべきことを最優先しながら、ご一緒に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など楽しみながらご一緒に選び、カット、毛染めもご自分の好みに合わせて楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛り付け、片付けに至るまで、ご利用者お一人おひとりがそれぞれできる分野を分担して行ったださっている。	利用者個々に役割分担があり出来る事をしている。献立は1週間毎に作成しているがその日に応じて変えている。毎日メニューを伝え利用者の好みも入れている。買い物は一緒に出かけ、食事は職員も一緒に会話しながら楽しんで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は一日を通して記録行い把握している、またご利用者の状態に合わせて調理の工夫や嗜好に合わせて献立を立てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれのご利用者に必要な声かけやお手伝い準備など支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式により排泄パターンや習慣を把握し声かけ等必要は支援を行っている。	24時間サイクルで1週間の排泄パターンを把握している。職員は見守りと共に声かけをし、トイレ誘導をしており、自立に向けたリハビリパンツをしている。各居室にはトイレの個室が設置されていて、利用者は居室にて行っている。トイレでの排泄自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、健康体操や施設内散歩を行ったり、水分摂取量が低下しないように努め、献立に野菜を毎日取り入れたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにご用意し、ご希望や体調に合わせてご自由に入浴していただいている。	毎日入浴で日勤帯では自由に対応している。お湯はその都度入れ替えをしている。順番や介助においては利用者個々に対応している。入浴を拒む方は時間をおいたり、声かけをするなどしている。入浴は好まれるので個々に合って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自室で過ごされる時間は大切にいただいている、また習慣を変えることなく、好きな時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者お一人おひとりの薬のしおりをファイルに閉じて職員全員がいつでもの確認できるようにしている。服薬時は常時確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合った場面をご用意している、またご利用者の助け合いの中での自然な役割分担を安全に行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などの日常的な外出のほかに、ご利用者のご希望に合わせて出かけられるように年間を通して計画をたて支援している、また月一回の面会にも出かけている。	行事を含めて外出支援の年間計画を作成している。職員と一緒に買い物に出かけたり、家族と相談しながら、外出や外食、外泊もしている。毎月1回は、家族の面会時に一緒に出かけている。又季節に応じて、花見やランタン祭りなどに出かけている。職員は家族と協力しながら、利用者が外出できるように支援している。	



グループホーム 鶴舞苑Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、お財布をお持ちの方もいらっしゃる。ご自分でお財布を持たれていない方も買い物と一緒に際は職員がレジでお金をお渡しし、ご自分でお支払いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室には電話が備えてあり、ご自分でかけられている。必要な時にはお手伝いし、手紙なども一緒に送って差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光やテレビの音の調整はもちろん職員も環境であることを理解し話し声などにも気をつけている。季節に合わせて花や飾り付けを行っている。	リビングとフロアは広く明るく家庭的な雰囲気である。幅広いソファに腰かけた利用者が会話を楽しんでいる。掃除が行き届いており清潔感がある。利用者で生け花の先生がおり、季節に合わせて生けている。壁には文化祭にて2位受賞の貼り絵等が掲示してあり皆の励みになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに絨毯を敷きテーブルを囲んだり、ソファに腰掛けて会話を楽しんでいただいている、またプレイルームにもテーブルと椅子をご用意し面会に来られたご家族、ご友人と過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた筆筒や椅子、お仏壇などもお持ちいただいている。自室は好みに合わせて飾り付けもご自由に行っていただいている。	居室は利用者の使い慣れた椅子や仏壇などが置かれている。部屋の窓は広く、日差しが入り明るい。電話やテレビ、洗面台、トイレ室が個々に設置されている。趣味の物や家族の写真などが壁や棚に置かれており、居心地のいい居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく廊下、トイレ、浴室等には手すりをつけている。ベットはご利用者の身体状況に合わせてご用意するようにしている、またわかること、できることを把握し、自然な言葉かけを行っている。		